

大地にきざむ鋤と憲法

● 1 ●

基地の中の平和公園

軍事基地と平和公園。この相反するものが併存する茨城県・百里の大地。戦後日本の歩んできた道を象徴するようなこの大地で、日本国憲法とともに生きてきた開拓農民たち。その戦後五十年に迫ってみました。

(栗田敏夫記者)

「く」の字誘導路



茨城県中央部の農村地帯、東茨城郡小川町。刈り取りが終わった田んぼとビニールハウス。真冬の朝。赤茶けた畑に――

広大な大地は、遠く西に筑波山を見渡せ、南には霞ヶ浦があります。地平線から昇る太陽は、地平線に沈んでいきま

がぼつぼつと建つ畑が広がり、原野と防風林が点在する

面、白い粉をまぶしたように霜が降ります。野鳥のさえず

りと宮沢さんが飼育する牛の鳴き声だけが静かな風景にとけあっています。

「いまは年末年始でジェット機がほとんど飛ばないから静かなんです」

響き渡る森音

自宅から直線にして五、六百メートルのところにフェンスと有

刺鉄線が張られています。金網の向こうは航空自衛隊百里基地です。午後三時すぎ、あたりを圧倒するような轟(ごう)音が響き渡ると、二機のF15イーグル戦闘機が爆音を残しながら離陸していききました。

同基地には、中部航空方面隊第七航空団所属の204、305の二飛行隊のF15四十

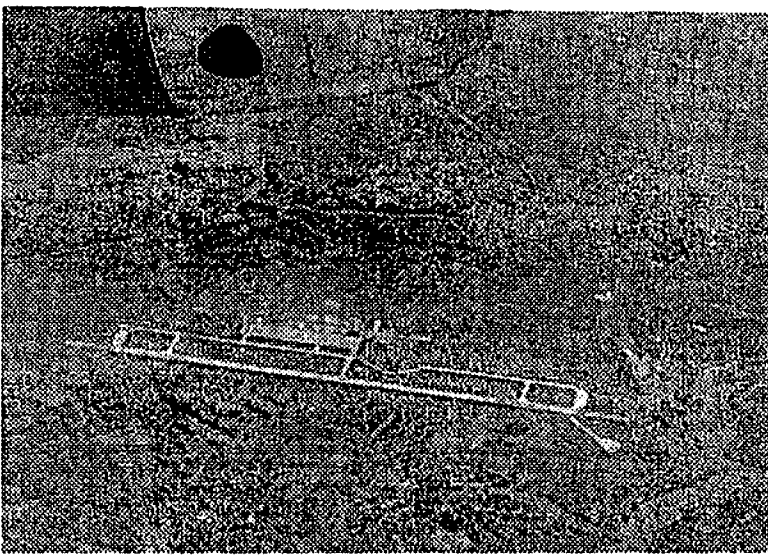
四百人の名前

「軍事基地の中の平和公園」――このユニークな平和運動の中心にいたのが宮沢さんら百里基地反対同盟の農民たちです。宮沢さんは、百里基地

反対同盟委員長、百里平和委員会会長を務めています。反対同盟の一員で「平和公園」の園長、川合弘喜さん五ひは「この平和公園で、目の前を行く戦闘機を見れば、いかに自衛隊が憲法九条に違反している軍隊であるかがよく分かりますよ」といいます。

「平和公園」の土地登記簿謄本をみてみました。四百人近い人たちの名前があり、住所は全国にいきわたっています。

一般市民に交じって映画監督の故山本薩夫氏ら文化人、学者らの名前もありました。俳優の山本圭さんもその一人です。「昔のことなので、覚えがないんですが、一坪運動のはしりですね。多分、叔父(山本監督)にいわれてやったんだと思います。平和公園という形で残っていると聞きまして、力になってよかったと思います」と話しています。



「く」の字に曲がった百里基地の誘導路
＝73年、池田真規井護士撮影

この百里基地は「欠陥基地」ともいわれています。二千七百坪の滑走路に平行する誘導路の一部が「く」の字に曲がっています。非常時には補助滑走路ともなる誘導路は本来は真っすべなはず。

「く」の字に曲げられた誘導路は世界でも例を見ません。もう一つ世界でも例を見ないものがあります。「く」の字のところに八九年二月つく

(つづ)

● 2 ●

土地を奪われ

「あるときは土地を出せ、あるときは食糧がないから食糧を増産しろと、また基地をつくるんだからとけと、こういう出けらのこと」

「さわると、今度こそは絶対に土地を手放さないといいことで、どのような理屈つけようとも基地は生存るなかれ」

「一坪運

高塚さんの父親が百里ヶ原といわれた土地に開拓農

戦後日本

高塚さんの父親が百里ヶ原といわれた土地に開拓農

が設置されます。この年に百里ヶ原に海軍航空隊百里

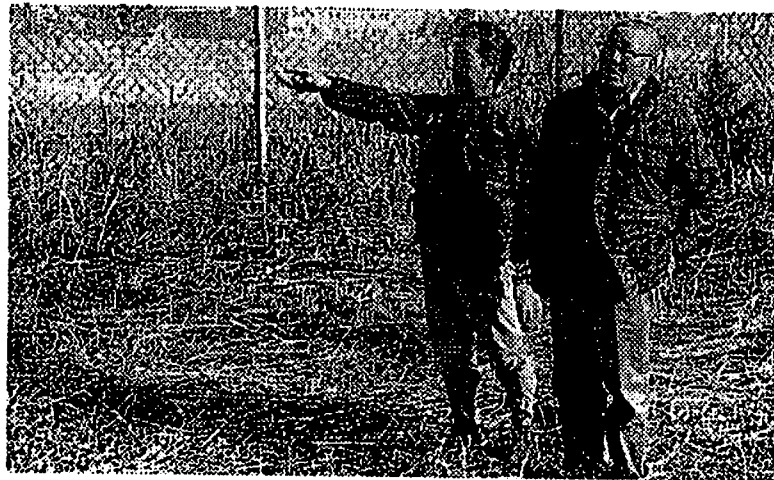
前、高塚さんは「国の役人が来て、日本はもう戦争を

「たんです」と宮沢さんは當時を振り返ります。

百里基地訴訟の法廷で高塚さんは証言しています。

と、いつておきながら「ななかれ」
と、吸てきながら「やんこ」

107

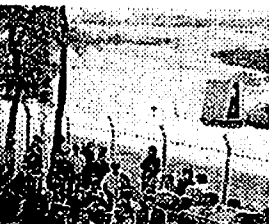


「一坪運動」の土地で平和公園の構想について話し合う富沢昭さん

「一坪運動」

阿わぎを自 っていました。

基地闘争の経緯が書かれた看板は、風雨に色あせた看板の長さど激しさを物語っていました。



郎さん(故人)は反対同盟の考えを披瀝しました。

「誘導路のところに、私らの土地が千五百坪あります。あれ、みなさんに差し上げます。全国の平和を愛する人々に一坪ずつ持ってもらおうと思うんです」

この提案を受け、六から「一坪運動」がはじまりました。よびかけには全国から四百人近い人が「一坪地主」になりました。

九年二月、平和公園が

(つづ)

全国から呼応

民の意思を無視して同年九月、機動隊を導入。道路に座り込む農民を突破して、ブルドーザーなどの建設資材の搬入を強行しました。選挙で山西さんが敗れました。

基地建設の既成事実を次

基地誘致派をつかつての山西町政つぶしをおこなわれ、五九年には山西町長のリコールが成立。続く町長団の呼びかけで東京からバスを運んで百里にやつてきた支援者を前に、高塚惣一

全国から呼応

六四年十二月、自由法曹



戦後50年 大地にきざむ 鋏と憲法

●4●

「土地売買契約が有効か無効か」という民事訴訟を、憲法裁判にまで発展させたわけだ。百里井護団の池田真規井護士は、東京・四谷の事務所で三十一年に及んだ裁判闘争の記録を克明にとどめた分厚いバインダーを前に話し始めました。

百里基地訴訟は、一九五八年七月に始まった民事訴訟です。百里基地の管轄塔国民のたたかいても急速に広がりませんでした。

百里基地訴訟は、一九五八年七月に始まった民事訴訟です。百里基地の管轄塔国民のたたかいても急速に広がりませんでした。

自衛隊の違憲性正面に

五九年の米軍立川基地・砂川事件一審で「米軍駐留は違憲」の判決、六〇年の安保闘争、六七年、北海道の演習場の通信線切断で酪農民が自衛隊法違反に問われた悪徳事件での無罪判決、七三年の長沼ナイキ訴訟での自衛隊違憲判決など、平和・民主勢力が広範な国民世論とともに大きな成果をかちとりました。こ

基地ある限り

反対同盟と平和勢力がた和公園」を完成させたのたかしの拠点となる「く」最高裁判決の四力月前の字にまがった勝導路の内た。

裁判官に自衛隊違憲判決を出させようと憲法の平和条項を武器に百里のほか、恵庭、長沼、砂川（相手は米軍）などで反対闘争と一体取り出しながら「見てきた」と目次を開けました。七七年二月、一審水戸地裁は「自衛力は合憲」の判決。司法の反動化がすすむなかでの判決でした。八一年七月の東京高裁での控訴反の自衛隊基地があるかぎり判決は、国による基地用地売買契約を有効とした

最高裁判決で記者会見する右から井護団長の尾崎護士（故人）、山西きよ元小川町長、宮沢昭百里基反対同盟委員長。山西さんが手に持つのは判決の前死去した風早八十二井護士の遺影。89年6月20日



満蒙義勇軍

「戦後五十年たつたいまでも、中国残留孤児の人たちとくると、新聞やテレビを見るんです。心当たりの人がいないかどうかね。数年前、茨城県の開拓団の人で、あそこの子どもに違いないという人がいたんです。が……」。基地反対闘争と憲法裁判をたたかっていた

百里基地反対同盟委員長、

宮沢昭さん（左）

には、いまなお、引きずる戦争体験がありました。

「二つ、われら義勇軍は

天祖の宏願

（ぼく）を奉

じ心を一にし

邁進し、身を

満州国建國の

聖業に捧げ、

戦後五十年
大地にきざむ

鉄と憲法

●5●

心に刻まれた悲劇

将来の夢は

終戦は満蒙開拓青少年義勇軍の一員として中国東北（旧満州）で迎えました。

六陣として派遣されました。東京・大田区で貧乏労働者の家に生まれた宮沢さんは、当時の少年の多くがそ



一面坡訓練所時代の宮沢昭さん＝宮沢さん提供

うであつたように将来の夢は職業軍人になることでした。

「家が貧乏で進学は無理でした。親父は知り合いの寿司屋の小僧の口を探してききましたが、軍人にもなり

たいし、農業も好きだった。それに当時食い物がなくて

腹が減ってがまんできなかつた。満州にいけば腹いっぱい食べれて、お国のため

にもなる、ということで義勇軍に志願したのです」と勳

坡（イメンポー）にいましたが日本軍は撤退し、義勇軍と開拓団だけが取り残されていました。終戦があと二日遅れたら、私たちも戦場に巻き込まれたでしょう」

武装解除された義勇軍は、近くの開拓団の治安維持のため派遣されました。宮沢さんは茨城県の開拓団に。「日中は女の人たちを山の中に隠したんです。ソ

連兵は隠し場所を教えなかつたSさんを射殺しました。Sさんの奥さんは精神的におかしくなつてしま

った。子どもたちは現地の中国夫婦に預けられました」といいます。

生死の境を

宮沢さん自身、発疹チフスで高熱を出し、生死の境をさまよったことも。開拓団の老人が「粟」だといって飲ませてくれたのは人骨を煎（せん）じたものでし

は、満州中央部に近い一面



茨城県の内原訓練所でおこなわれた青少年義勇軍の「渡満壮行式」＝宮沢昭さん提供

た。あまりの死者に、棺桶（かんおけ）が足りなくなつて、お神輿（みこし）のように担ぐようにし、墓場（かぶら）をひっくり返しては、また次のために使っていました。

「こんなつらいことは二度とあってはならない、戦争ほど惨めなものはない」。少年の心にそう刻みつけた

宮沢さんが帰国できたのは、終戦から一年以上たった四十六年十月でした。しかし、「お国のため」と信じていた義勇軍や開拓団の悲劇が日本帝国主義の中国侵略によって引き起こされたものであったことを知るのは百里に入植し、基地反対闘争にかかわってか

（つづく）

大地にきざむ鋤と憲法

●6●

「バーン、バーン」。小気味よいリズムで、むしろの上に広げられた大豆がたたかれていきます。

よく晴れた冬の日。茨城県小川町の宮沢昭さん（66）宅の庭先。納屋の軒先につるされたタクアン用のタイコンが風に揺れるなか、妻のてつ子さん（59）が「くるりん棒」という道具で干した大豆のさやから豆を取り出す作業をしていました。

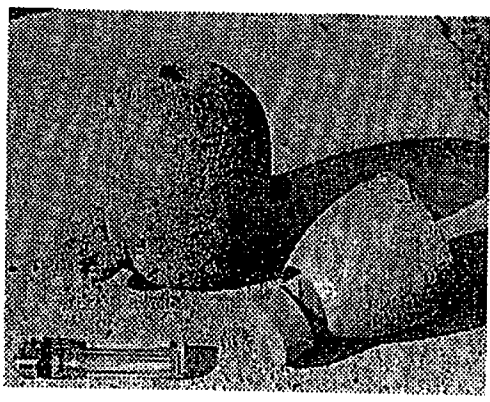
「うちのおっかあは、みそも豆腐も自分でつくるん

百里の台地

宮沢式農法は合理的。牛の堆肥（たいひ）を水田に入れ、水は井戸水を使いま

土を守る

だ」という百里基地反対同盟委員長の宮沢さんは専業農家。肉牛百頭の肥育と二畠の稲作をしています。



戦後50年たつ今も、宮沢さんの農地からは爆弾や照明弾の破片が出てきます

安保は農業を滅ぼす

が「一番大事だからね」と目焼けた顔をほころばせま

と、いまとなつてはいえませんが、水田にするのには「賭（か）けだった」といいます。不安定な農業経営を安定させるためにもコメを考へ、井戸を掘ってみたのです。生活の基盤をしっかりとせないと基地闘争は続けられない。基地反対闘

かあと二人で死に物狂いで働き、借金を返せたからなんとかしのけた」。二十年

前、同じように牛を始めた近辺十軒のうち、宮沢さん

ののぞき全部倒産。億単位の借金をかかえ、牛だけでなく農地、家・屋敷まで手放した農家もありました。

「牛肉もだめ、コメも今度の国会でカット・ウルグアイラウンドの協定批准を

を防衛片が買います。宮沢さんの隣組、梅沢優さん（49）は「この部落は基地がで

きる前は七十戸ぐらい農家がありましたが、いまはうちと宮沢さんだけになりました」といいます。

宮沢さんは「目の前で見てきた農業つぶしと憲法違反の自衛隊増強とはこの百里では表裏一体のものでした。ここで百姓として生活

争から離れていった農家を

見て反対同盟の農民が痛切に感じたことでした。

約四十畧の深さから水が出て陸稲しかできなかった百里の大地に水田ができ、反当たりの収穫は数倍になりました。六七年のことです。

しかし、大きな攻撃がその後も待ち構えていました。牛肉の輸入自由化です。「最大の苦境でした。おっ

決めて、いよいよです。いまの農家はまったく農望がもてません。こんな状態だから後継者もない。十人のうち、一人が失敗するん

ならその人の努力が足りないのかもしれないが、十人のうち、八、九人がつづけるのは個人のせいではなく、国の農政のせいです」

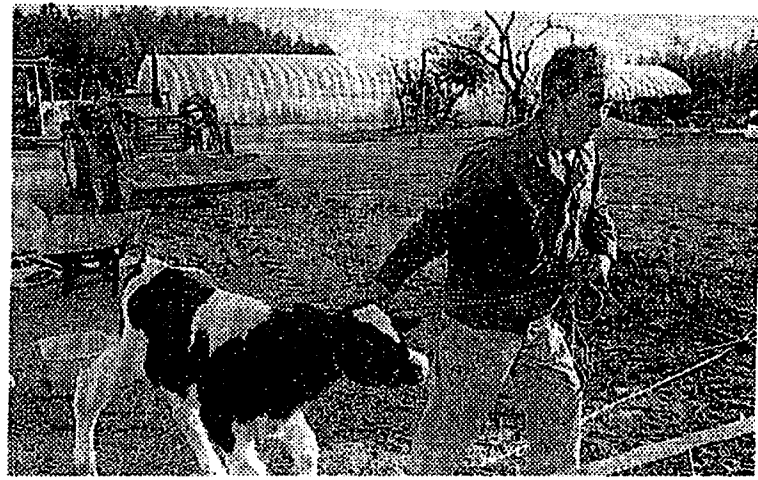
命を育てる

農家がつぶれると、跡地

を私たち農民は体で感じ取

つてきた。安保条約も自衛隊も平和にとってはもちろん、農業にとってもいらないものです」

百里の大地で基地反対闘争とともに積み重ねてきた農業経営。宮沢さんの努力と苦労はまだ続きま



子牛をひく宮沢さん。「牛の世話で猛も正月いわ」といいます

大地にきざむ鋤と憲法

●7●

宮沢さんら反対同盟と茨城県平和委員会など平和・民主団体は、戦後五十年、百里基地反対闘争四十周年にあたる今年、戦後の平和運動のシンボルの存在である「平和公園」の整備と最終段階にきた「遼寧山」(旧射撃場山)の新一坪運動を成功させようと新たな決意に胸ふくらませています。

宮沢さんは、戦後しばらくは戦争は二度といやだ、とぼくせんといか思っていたが日本共産党の議席を引き続き確保するため立候補します。中一の男の子と小五、小二、四歳の三人の女の子の母親です。小川町の農家に生まれたたつ子さんは百里基地反対闘争をほとんど知らずに育った世代です。

宮沢さんは、戦後しばらくは戦争は二度といやだ、とぼくせんといか思っていたが日本共産党の議席を引き続き確保するため立候補します。中一の男の子と小五、小二、四歳の三人の女の子の母親です。小川町の農家に生まれたたつ子さんは百里基地反対闘争をほとんど知らずに育った世代です。

「自衛隊は憲法違反」の看板の前にたつ宮沢昭子さん、梅沢たつ子さん、梅沢優さん(右から)



歴史の歯車 逆転させぬ

が、これからの余生もこれまでと同じように、二度と戦争はいやだ、戦争につながる基地もいやだ、憲法にうたう平和を守るために生きていくことを私のいきがいにしたい。日本共産党員ですから」。

2月に選挙

百里基地をかかえる茨城安保廃棄をいう政党は日本共産党だけになり、その真価をますます発揮するとき

「遼寧山」、百里の大地に生きたる「憲法百姓」とはがらばらねば。そして百里闘争の若い後継者ももつと育てていかなければと思っています」といいます。大きなきざみとなって

大きなくさび

百里基地をはさんで「平和公園」の反対側にこんなもろり集った小山がありま。離散する戦闘機の写真を撮りくるマニアの間では、「遼寧山ポイント」といわれています。

「遼寧山」には一・八坪、四方の看板八枚が並んでます。「自衛隊・隊・は・憲・法・違・反」。七十六年二月に作られた看板は、二度ほど何者かによってコーラルターを塗られる妨害に遭いました。が、この十九年間、基地をにらみつけ

本当の軍隊

「平和と民主主義を守るため、と入って見たら、自衛隊はその逆の本当の軍隊だということを感じました。とくに百里では地域住民と対立していましたから、曲がった誘導路や遼寧の看板を見ていると考へさせられましたよ」。山



百里平和委員会が発行したパンフレット「百里 平和なくらしに基地はいらない」